

「環境」就職・進路相談会 in 九州 実施報告書



開催日 2005年12月4日(日) 10時~16時

場所 北九州市立大学 北方キャンパス

多目的ホール B1F

1. 実行委員長挨拶

「環境」就職・進路相談会は関東や関西では10年以上の歴史を誇るイベントですが、九州での開催はこのたびが初めてのことです。「環境」就職・進路相談会は「環境」と「将来」、環境をシゴトにする社会人と社会に出て環境を学びたい学生とを結びつけるイベントです。実行委員長として初めにこの企画を実施することを決意したとき初開催ということもあって何人の講師の方をお呼びできるか、どれくらいの参加者が来てくれるのか不安でたまりませんでした。しかし開催が近づくにつれ、いろいろな人の助けもあって素晴らしい講師の方10名に来ていただけることとなり、参加者も予想をはるかに上回って遠くは広島、長崎からも来ていただき最終的に60名近くまで増えることとなりました。これもひとえに忙しい時間の中参加して下さった社会人講師の方々のご協力があったることだと思っております。本当にありがとうございました。

九州では正直に言って関東や関西と比べ学生と社会人が接する機会は圧倒的に少ないといえます。しかしそのことを言い訳にするのではなく自らのパワーにするくらいの気持ちで九州の学生にはがんばってほしいと思います。「環境」就職・進路相談会 in 九州が参加された全ての皆様の今後の糧になることを願っています。

2006年4月30日 「環境」就職・進路相談会 in 九州実行委員長 緒方 太一

2. プログラム

時間	プログラム
10:00~	受付開始
10:30~12:00	シンポジウム 環境に携わる仕事とは!? ~その実態、その想いに迫る~
12:00~13:00	昼食
13:00~13:25	相談会 Part
13:35~14:00	相談会 Part
14:10~14:35	相談会 Part
14:45~15:10	相談会 Part
15:20~15:45	相談会 Part

3．シンポジウム発表者

コーディネーター

小清水 宏如（こしみず ひろゆき）

（エコ・リーグ「環境」就職・進路相談会実行委員会 in 東京 事務局長、エコ・リーグ前副代表理事）

パネラー

- 1．北九州市役所 清水 英彰 氏
- 2．楽しい株式会社 代表取締役 松尾 康志 氏
- 3．NPO 法人 北九州ビオトープ・ネットワーク研究会 副理事長 高倉 弘二 氏

4．シンポジウム詳細

九州 「環境」就職・進路相談会 シンポジウム報告

「環境に携わる仕事とは？！その実態、その想いに迫る」

「環境に携わる仕事とは？！その実態、その想いに迫る」というテーマで行政・企業・NPOの各セクターで環境に携わっていらっしゃる3名をパネラーに迎え、お話をいただいた。

北九州市役所環境局の清水英彰さんは、行政の立場から環境との関わりについてお話をしてくださった。

昔、洞海湾は“死の海”といわれ、公害問題が深刻だった。そこで何とかしようと公害問題をいろいろな努力で克服し、さらには、北九州市として環境首都をめざすべく、市長がリーダーシップを発揮し、“産業の環境化”を進めてきた。行政というのは縛りがある。縛りとはルールであり、前例に従って物事を進めていく局面が多い。時にはこの前例が縛りになってしまうこともあるが、あくまでも自治体は公平性を担保しなくてはいけないため、恣意的なことにならないように前例に従うことになる。自身が市役所に入ってから20年近くたって、今の環境部署に配属された。現在、環境局では、ごみの減量化、環境産業の振興、国際貢献など環境に対しては積極的に取り組んでいる。また、行政の役割のひとつとしては、環境に頑張っている人を表彰することを通じてサポートしている。議会对応の仕事やアスベストの問題もあり、いろいろなことをしている。その中でも、現在、ごみ袋の有料化を進めているが、住民のみなさんの中にはいろいろな考え方があり、環境局の職員が出向いて行って住民説明会を開き、理解を求めているところである。しかしながら、この仕事は本当に大変である。北九州市の採用では21世紀枠という職種枠を設けて、ある特化したテーマにやる気のある方が手をあげてもらって仕組みを実施しており、環境関係では循環型都市づくりというテーマがあり、採用実績がある。面接では知識があるとかということよりも人物重視で応募者を見ている。自分も面接官として面接することがあるが、最近の若者の考え方に触れることを通じて気づかされることもある。役所の職員として「何をしたいのか」「どんな想いがあるのか」といった観点からやる気のある、パワーのある方に来ていただきたい。

楽しい株式会社社長の松尾康志さんは、企業の立場から環境との関わりについてお話をしてくださった。ご自身は文化 環境 福祉の3分野に関わる仕事に取り組んでいきたいと考えていた。

まずは環境の仕事をしてみようと、19年間勤めた会社を辞めて、21世紀が始まった2001年（平成12年）に

「楽しい株式会社」をたちあげた。40代は環境の仕事をし、50代は福祉の仕事をしたい。そして、60歳になったら文化・環境・福祉の3つに融合する仕事をしたみたいと考えている。仕事の流儀として今でも実践していることは、「やることとやらないことを決めること」。まずやるかやらないのか意思決定をしないことには仕事は始まらない。そして、「環境のことだけをやる」ことを決めたわけだが、環境の仕事は3Kの仕事でもある。環境というとかく暗い話があり、環境、環境と考えているとつらくなるので、楽しく循環させる仕事、経済的にみても楽しい仕事をしようと「メリーズモデル」というものを開発した。割り箸を炭焼きにしていたが、その割り箸には防腐剤が入っており、なんとその防腐剤は硫黄系が入っていたため、結果的にダイオキシンがでるといふ本末転倒なことに気がついた。そこで、それを改善して、自然の竹からつくった割り箸を炭焼きすることにした。今では1000点の商品がある。環境の仕事に関わるためには、知識が必要になるが、一人ですべてをできないため、人脈が必要になってくる。連携できる関係づくり、つまり、人脈が大切である。人には絶対かなえない夢がある。この理想の夢を実現するためには、決断力が重要で、「who」と「when」を決める。まずはこの2つを決めて物事を進めていけば、試行錯誤からであっても、たびたび目にみえる成果がでてくるのでまた楽しくなる、そして、また成果がでて、叶えたい夢が実現できる人間になるわけである。

NPO 法人北九州ピオトープ・ネットワーク研究会の高倉弘二さんは、NPO の立場からは環境との関わりについてお話をしてくださった。

仕事とは別に何かをやりようと思ひ立ち、身近にある川が非常に汚いということで、それをきれいにする活動をしている。NPO 活動は企業と違ってお金を獲得するのではなく、達成すべき目的があり、夢と感動のある社会にしていくためにはどうしていくのかを考える場である。今は自分の志さえあれば、夢がかなえられるという時代に我々は生きているわけであるから、自分自身で何をやりたいのかを明確にすれば、必ず何事でもやれる。ただし、NPO 活動で大変なのは環境に関心のない人にいかに PR していくのがポイントである。だからこそコミュニケーション能力が求められる。いくら夢をもっていても相手に理解してもらい説得しなくてはならない。そういう意味でも挫折感を味わうこともある。ただ、自分としては、NPO と仕事とは別々とは考えず、一体である。生きていく中でいろいろと教わることが多く、非常にためになっている。「ふくおか環境マイスター」という資格を持っているが、資格というのは自分の知見を広げるために必要なものだととらえてほしい。就職活動のためにとるのではなく、就職活動が終わってから何かできるために、知見を広げるために、資格にも果敢に挑戦して行ってほしいと思う。

以上、3名の方々に交互にお話いただいたが、このシンポジウムを通じて自分の意志さえあれば、行政・企業・NPO のどの各セクターからでも環境に関わる仕事につくことができるということ。また、環境の仕事をするには特別な知識が必要なのではなく、決断力、人脈づくり、熱意、夢を語ること、また、相手に理解してもらおうコミュニケーション能力だが必要であるということの2点が一番のメッセージだったのではないかと。

今回、九州で初めて「環境」就職・進路相談会を開催したが、今回の相談会をきっかけに参加者のみなさんが環境関連の仕事ができる場にそれぞれ羽ばたいていき、今回、環境で培った“輪”をさらに広げていってくださることを大いに期待するものである。

文責：コーディネーター役

エコ・リーグ「環境」就職・進路相談会 2005 in 東京 事務局長 小清水宏如

5 . カウンセラー

カウンセラー（業種名）

コンサルティング、環境機器販売、環境ベンチャー、食品、エネルギー、行政、NPOなど

6 . 相談会詳細（カウンセラー・コメント集）

- ・ 新入社員に求める即戦力とは
- ・ 分野は問わず環境問題に何かしらの興味・関心・情熱をもっていることはもちろんですが、人と接する機会が多く、仕事をスムーズに進めるため、コミュニケーション能力は大切です。
- ・ 工夫する、アイデアを練る、提案する、貢献する、という前向きな気持ちを常に持っている。
- ・ 自分と価値観の違う、異性、学生、異なった世代の人々、外国人などと積極的に交流し、その考え方を良く聞き、価値観・考え方の違いから新しいものが生まれることを理解し、実行できる。
- ・ 自ら進んで研究、勉強することができること
- ・ 「オレがやらずに誰がやる」精神。
- ・ 夢を描ける人、または、夢を共有できる人。そして夢に向かって行動できる人
- ・ 自律性が高く、常に問題意識を持ち課題形成・解決して行ける人。
- ・ 瞬発力 何か始めたり、頼まれたりした際の瞬発力
- ・ 対人折衝能力 いわゆるコミュニケーション力
- ・ チャレンジ精神 果敢に手を挙げて挑戦する意志
- ・ 私見ですが、推進力（パワー）が一番だと思う。

仕事をしていく中で身に付けた能力を「力」と表現すると

- ・ コミュニケーション能力（相手にわかるように話せる）
- ・ コミュニケーションを活かし、人とのつながりで得た知識や情報は仕事の幅を大いに広げてくれます。
- ・ 異文化交流力
- ・ 好奇心維持力
- ・ 「交渉力」 お客様との交渉、メーカーとの交渉、社内での交渉などあらゆる場面で最善の結果を得るために必要なので身に付きます。
- ・ 考えているだけでなく行動に移さないと意味がないでしょ。行動に移すと考えが膨らむものです。
- ・ 「決断力」と「行動力」
- ・ 自己表現力
- ・ 社会対応力
- ・ 提案力（営業力）
- ・ 「素早く立ち上がる力」 上司や先輩から呼ばれた時、何かを頼まれた時に、すぐに「ハイ」と言って立ち上がる力。年齢が上の方々がが多い職場でコミュニケーションを取るにあたり、素早く立ち上がる力が身につきました。
- ・ 情報収集力

- ・学生へのメッセージ
- ・目の前にあることに何にでも一生懸命取り組み最善を尽くせば必ず道は拓ける、と思います。
- ・環境に関する知識・考え方は、今後益々、英会話のように（最近では中国語も）生きていくために必要で、有用な知識・能力となっていきます。環境を楽しく、すてきに学び、実行する方法をぜひ身に付けましょう。
- ・環境就職を考える時、「どういう職業があるのか？」ではなく、まずは「どういう立場で環境に取り組むか」を考えて欲しい。世の中いろいろな立場の人が環境を良くしようという一つの目標に向かって働いている。
- ・環境はまずできることから行動！
- ・個性を大切に、自信をもってことに当たる元気の良い人間を目指してください。（自主活力）
- ・何か行動を起こす時の動き方に「正解」はありません。皆さんなりに試行錯誤しつつ進んでもらえればと思います。行動を起こしてこそ得られるものはたくさんあります。「志」を大切に、前進してください。
- ・何事にも、チャレンジ精神を持ってください。

7. 参加者アンケートから

今回の『環境』就職・進路相談会の参加者に満足度を100点満点で採点してもらいました。

平均点は **40人中38人** 回答で **81.31点** でした！！！！

参加者アンケートからのコメント抜粋

良かった点・・・ありがとうございました。

- ・いきいきと仕事をしている方たちの話を聞いて、視野も広がったし、自分もがんばろう！と思えました。
- ・環境は意識さえあればできる。環境を専門にやっている所に行く方法もあるが、全くやっていない所を変えていくことができる。
- ・視野を変えてみることの大切さ。考えること、それを行動にうつすことが重要だと思いました。
- ・やりたいことを自分の仕事にされている方が多かったので、就職に対してやる気が出ました。
- ・環境専門会社、環境部とかじゃなくても環境問題にとりくめるし、繋がりはある。
- ・学校の中だけで考えるのではなく、外に出て活動すること。視野を広げることが大切だと思いました。どの方も行動が重要だとおっしゃっていたので、行動していこうと思います。
- ・上手く行かなくても次がある。早く、自分がやりたい事を見つけたいと思った。
- ・就職や環境関係になく、人生の先輩として話が聞けたのが良かった。例えば、計画することも行動の1つだということ、あれもこれもできないことに悩んでいたけど、そこで決断していけばいいことが分かった。

悪かった点・・・今後の参考にさせていただきます。

- ・もう少し暖房システムを完備してくれたらよかった。
- ・時間配分25分ローテーションは少し長い。もう少し時間配分を短くして、いろいろな人の話が聞きたい。
- ・もう少し時間を長くしてほしい。
- ・大学内で会場を探すのに困った。もっと案内表示を大きく、増やしてほしい。
- ・できれば、事前にカウンセラーの方の情報を知りたかったです。
- ・もう少し早い時期がよかった。

メディア掲載実績

1. FM福岡(ラジオ) 12月1日(木) 14:30~ 番組内情報コーナー
2. 『西日本新聞』 12月2日(金) 朝刊34面(九州版)
3. 『朝日新聞』 12月3日(土) 朝刊31面(北九州版)

『西日本新聞』掲載記事 2005年12月2日(金) 朝刊34面(九州版)

環境関連企業の学生就職相談会
4日北九州市
東京の環境団体「エコ・リーグ」(全国青年環境連盟)「川島怡一代表

理事)は四日午前十時から、北九州市小倉南区の北九州市立大学北方キャンパスで、環境関連企業への就職などを希望する大学生らを対象に「環境就職・進路相談会」を開く。

環境の仕事に従事する人たちによる多様な相談会。求人求職が目的ではない。同団体は十年前から、東京や大阪で開催してきたが九州は初めて。

当日は「環境の仕事」をテーマにしたシンポジウムもあり、北九州市環境局職員や、朝かび煎などを使わない割りばしの製造販売・リサイクルが評価されて北九州市環境賞奨励賞を受けた「楽しい株式会社」(岡市八幡西区)の松原康志社長らが意見交換する。その後、同環境局職員や松原社長、環境機器販売会社社員ら計八人の社会人が、個別相談に応じる。

参加費は資料代として五百円。参加は事前申し込みが必要で、申し込みはホームページ <http://sondankai.eco-2000.net/>。同団体は09(10)25(2)220

『朝日新聞』掲載記事 2005年12月3日(土) 朝刊31面(北九州版)

環境ビジネスへ あす進路相談会

北九大で
シンボも 企業・NPOが出席

北九州市のエコタウン事業に代表される「環境ビジネス」に関心のある若者を対象に、北九州市立大(小倉南区北方4丁目)で4日前10時から就職・進路相談会が開かれる。学生たちが企画した。

環境ビジネスのすそ野は広い。企業や官公庁の担当部署のほか、NGO(非政府組織)による公害防止や自然保護の取り組みも指すし、公害防止装置や環境調査などを商品にする企業もあてはまる。こうした環境ビジネスの市場規模は、25年には00年の2.5倍の103兆円になると政府は試算(1)259。

相談会は、環境ビジネスの実態に迫るシンポジウムで幕を開ける。市環境局のほか、使用済みはしの竹炭リサイクルに取り組んでいる「楽しい株式会社」(八幡西区)、環境コンサルティングをする「九州テクノリサーチ」(戸畑区)、竹の間伐や竹林利用に取り組み地元NPOなどの人たちがパネリストになる。

続いてパネリストや先輩社会人の計8人がカウセンターになり、就職や進路の相談に乗る。視野を深めてもらうのが目的で、採用とは無関係とい

北九州市立大経営企画課によると、今春の卒業生で環境ビジネス界に進んだのは10人程度。主催者の一人で3年生の緒方太一さん(21)は「全国に先駆けてエコタウン事業をはじめた北九州で、環境の仕事や保全にもっと興味を持ってほしい。問い合わせは同課(093・964・4195)へ」。

964・4195)へ。

メディア掲載実績 2

4. 『西日本新聞』 12月5日(月) 朝刊26面(北九州版)
 5. FM KITAQ 1月14日(土) 20:00 ~ 『ガイアの風』出演

『西日本新聞』

2005年12月5日(月)

朝刊26面(北九州版)

環境意識高い学生支援
 就職相談会に
 50人が参加
 北九州市立大

環境問題への関心が高い学生に、その意識を生かせる仕事を見つけてもらうきっかけにしてみよう。と、東京の環境団体「エコ・リーグ(全国青年環境連盟)」(川島悟一代表理事)は四日、小倉南区北方の北九州市立大学で、企業や行政の環境問題への取り組みなどを紹介する「『環境』就職・進路相談会」を開いた。

写真。
 環境に配慮した野菜栽培を行う会社や環境教育の普及に取り組む自治体など、八つの企業・官公庁関係者が参加。求人求職を目的とせず、学生らと気軽に話し合う形式で行われた。九州各地や中国地方から集まった約五十人の大学生は、熱心にメモを取りながら話に聞き入っていた。

参加した広島県立大学(広島県庄原市)三年の佃麻実さん(三〇)は「将来は自然の大切さを伝える仕事が見たいと思ってる。職種の見聞はたくさんあると実感できた」と笑顔で話した。

【開催概要】

日時 : 12月4日(日) 10時30分~15時45分
 場所 : 北九州市立大学 北方キャンパス 多目的ホール
 後援 : 北九州市、北九州市立大学

参加費 : 500円(資料代として)

講師 : 8名+1名(パネラーのみ)

参加者 : 46人+スタッフ7名

編集責任者 緒方 太一

問い合わせ エコ・リーグ事務局 <http://el.eco-2000.net/>

発行日 2006年4月30日